在宅ケアにおける栄養管理、特に胃ろうについて

NST（Nutrition Support Team）

・・・医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種からなる栄養サポートチーム。

【栄養療法】

・経口的栄養療法

・非経口的栄養療法

1．経静脈的栄養療法

中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法

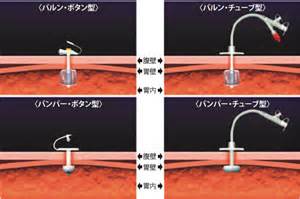
　　2．経腸栄養療法

　　　　胃ろう、腸ろう、経鼻胃管、PTEG

【胃ろう】

PEG（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy）

1. タイプ



・ボタン型・・・別途接続チューブが必要

・チューブ型・・・接続方法・管理は容易。汚染されやすい。引っ張って抜去してしまう可能性がある。

・バルーン型・・・1～2か月ごとに交換。バルーンが破裂する可能性がある。

・バンパー型・・・4～6か月ごとに交換。交換するときに痛みを伴う。腹腔内に誤挿入してしまう可能性がある。

2．適応

　　・栄養補給のため

　　・誤嚥性肺炎を繰り返す事例

　　・減圧目的

1. バンパー埋没症候群

バンパーの外部ストッパーによる胃壁と皮膚との圧迫によって、バンパーが胃壁内に埋没してしまう。1，2㎝遊びを持たせて固定し、時々回転させて、自由に動くことを確認する必要がある。

1. バルーンの十二指腸への迷入
2. チューブ閉塞

毎回のフラッシュ（栄養剤注入後の通水）と、フラッシュ後に酢水（食酢：水＝１：９）で充填させることが重要。

1. 事故（自己）抜去

バルーン貯留水の確認が重要。

1. 注入速度

早すぎると、下痢、嘔吐、誤嚥性肺炎などのリスクを高める。

遅すぎると、栄養剤内の最近増殖が高まる。

1. 皮膚トラブル

・圧迫による肉芽形成

・ろう孔からの栄養剤の漏れによる皮膚炎

・胃ろう注入時間が長いと仙骨部褥瘡のリスク

・口腔内の乾燥、感染

9.　難治性下痢

　　・栄養剤が急激に十二指腸や小腸に流入することによって起こる。

　　・小腸に流入した栄養剤は、一般的には高浸透圧により腸管壁から体液を誘引し、下痢を引き起こす

　　・こうして繰り返される下痢により、大腸の腸内細菌バランスが崩れ難治化していく。

10．胃食道逆流

　　・胃穹窿部などに栄養剤が貯留することが一因

　　・誤嚥性肺炎の原因になる

11．半固形化

・短時間注入法

・胃食道逆流症、誤嚥性肺炎、下痢、ろう孔からの漏出などを防止する

・介護時間の短縮